



を人自らが知るようにと、「人の血を流す者は、人によって、血を流される」、すなわち殺人に対する死刑を制定されたのでした。「血はいのちであるから、奪って、滅ぼしてはいけない」という原則は、動物をいけにえにするときや食用にするときも同様に適用されることになり、「いのちを含んだままで、滅ぼしてはいけない」ことから、イスラエルの民は、必ず血抜きをして動物をいけにえにささげ、また食用にすることが命じられたのでした。

新しい大地で、新しい秩序の許で、ノアはブドウ園の農夫として新しいスタートを始めました。人間政府の秩序を保つため、犯罪に対する制裁として死刑は宣告されましたが、神がノアを通して全人類と交わされた契約は、罪の結果の終末的制裁である「死」には言及しない、この世の(一時的)いのちの約束、「**生めよ。ふえよ。地に満ちよ**」でした。このように、神が地上のすべての生き物と交わされた無条件契約の恩寵の許で、邪悪なもの一切が一扫された時代は、すべてが順調に滑り出すかのようにでした。しかし、人を墮落させようといつもすきをうかがっている暗闇の支配者サタンが一扫されたわけではありません。事もあろうに、ぶどう畑を造り始めたばかりのノア自身が見境もつかないほどにぶどう酒に酔い、醜態をさらけ出す事件が起こります。ノアの泥酔は明らかに、自制心を失って放縦に走った罪の姿でした。しかし、神に献身する者のうちに罪の芽を見つけ、暴き、非難するのはサタンの常套手段です。最初に父ノアの醜態を目撃した末の息子ハムは、「義人」を打つサタンの格好の道具として用いられることとなります。

おそらく常日頃から、「神の義」を説き、「神の道」を宣べ伝えていた父ノアに反発、不快に思い、心の奥底には憎しみすら抱いていたのでしょう。「義人」として通っていた父の泥酔、醜態を目撃したとき、ハムが採った言動は父を笑いものにし、罪を暴き、公にする邪悪な道でした。この世ではあとを絶つことのない日常茶飯事で案外軽く見過ごされている「ゴシップ」の背後には、同様にサタンが働いているのです。サタンの揺さぶりに対し、もろくもサタンの罠に陥ってしまう人の弱さは、神が人類最初の殺人者カインに警告された言葉「**なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである**」(創世記4:6-7、強調付加)に従って、闘って克服する以外にすべはないのです。

父を辱めるハムの行為を神がどのように受けとめられたか、また即座に父の醜態を着物で覆って隠した兄たちの憐れみの行為を神がどのように評価されたかは、酔いから醒めて事の次第を知ったノアを通して神が語られた預言の中に反映されています。二人の兄ヤペテ、セムの行為が神のみ旨にかなったことであったということは、ノアは依然として神の「義の衣」で覆われ、守られている神のしもべであるということでした。したがって、ノアの説く「義の道」を受け入れ、歩んでいたヤペテとセムの子孫には、神のみ旨を行なうかぎり、永続する神の祝福が約束されたのでした。他方で、ハムに対する預言を神は、後世この預言が間違っ解釈されることがないように配慮されたのでしょうか、言葉を選んで、語られました。新しい大地にノア一族が降り立ったとき、神はノア一族すべてを祝福されたので、今、神が祝福されたハムにのろいをかけることはできないことでした。そこで、ハムの息子のカナンに向かってのろいの預言が語られたのですが、このことは同時に、のろいがハムのすべての子孫にかけられたのではなく、神の憐れみによってカナンの子孫だけに限定されたということでもあったのです。人間史の中で、ハム族(黒人)をヤペテ族(白人)が奴隷として売買、酷使し、聖書の言葉によってそのことを正当化するという恐ろしい時代がありましたが、これはすべて神の言葉を曲解した結果の悲劇でした。

人種の違いは今日、血液型でかなり正確に識別できるようになっており、違った人種との混血の有無、割合、民族移動の跡づけなども辿ることができるようになってきているようですが、Gm 遺伝子の特徴によって人類は三つの大きな流れ、1. コーカソイド(白人) 2. モンゴロイド(蒙古系) 3. ニグロイド(黒人)に分類することができるのです。今日、血液型研究の最先端に行く血清タンパクの持つ血液型である Gm 型に対して、ちまたで性格、能力判断によく用いられている ABO 式血液型は赤血球の型に基づくもので、発見されてほぼ百年近くになるといいます。多くの新しい血液型分類が発見されてきた中のほんの一つの型にすぎない ABO 式血液型によって性格とか能力、言動を判断することはまず不可能で、科学的には全く根拠のない占い、お遊びにすぎないと専門家が語っているにもかかわらず、なぜか ABO 式血液型による性格判断は日本で横行しているのです。あたかも、自分の罪の問題、言動の責任転嫁を血液型になすりつけるサタンの策略に陥ってしまっているかのようです。専門家によれば、「一卵性双生児を除いて世界中に一人として同じ血液型を持っている人は存在せず(三十種の血液検査で、二人の血液型が一致するチャンスは、九四三億回に一回より小さい)、ABO 式血液型は糖構造の一部のわずかな違いによって分類されているにすぎない」のであって、そのようなわずかな違いだけに着目して、複雑多岐な構造と生理作用を持つ高等生物、人類の性格や能力を判断する拠り所にするということ自体意味のないことは明らかです。輪廻転生で人や動物が何度も生まれ変わり、「自分がかつて…であった」と古代の著名人と自分を同一視する人たちがいますが、近い将来、近年のバイオテクノロジーの発展によって可能になったすぐれた個体識別法、DNA 多型によって、偽りの主張が暴かれるときが来るでしょう。他方で、最近の目覚ましい医科学研究、工学の成果は、聖書の主張を細部にわたって裏づけこそすれ、否定するものではないのです。